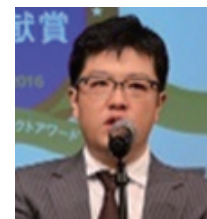


》 ライフサイエンス

救急医療データベースと救急度判定アプリ

高度救命救急センター

医員 片山 祐介



▶ 特徴・独自性

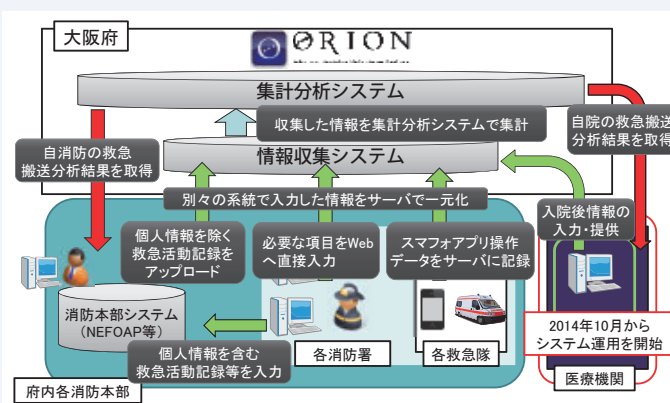
阪大救急医学教室は大阪府と共に、大阪府内の救急搬送全件の詳細データベースである ORION システムを開発、運用中であり、年間 40 万件、累計 100 万件以上のデータが、搬送前の状況、搬送後の病院での処置データとともに蓄積されている。このデータベースを活用すれば、都道府県レベルの救急医療の実態が詳細に解析可能であり、救急医療体制の最適化等様々な応用が考えられる。

また、片山医師は、一般市民が子供の急な病気やケガの際に症状の緊急度を判定し、適切に「救急車要請」や「医療機関受診」を行えるアプリケーションを研究・開発し、2015年9月から運用しており、本アプリで構築されたアルゴリズム（特許登録済）等を応用し、更なる社会貢献を目指している。

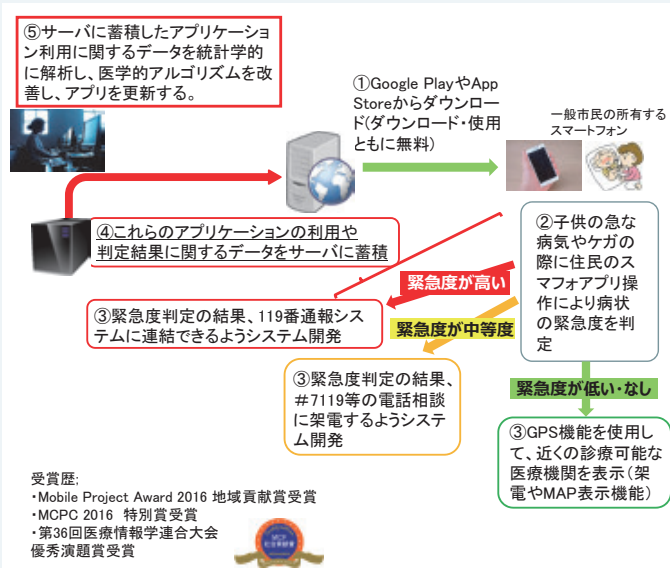
本アプリは、2016 Mobile Project Award 社会貢献賞や 2016 MCPC 特別賞を受賞する等、社会貢献度が高く評価されている。

▶ 社会実装と実用化への可能性

ORION データベースのデータからは、救急医療状況を詳細に解析可能であるだけでなく、疾病の流行状況の把握なども可能であり、医療システムの最適化に向けた様々な応用が考えられる。また、救急度判定アプリは、近年特に増加が著しい訪日外国人向けなどへの応用や、企業の保険組合などへの適用が想定される。



ORION (Osaka emergency information Research Intelligent Operation Network system) 構成図



受賞歴:
 ・Mobile Project Award 2016 地域貢献賞受賞
 ・MCPC 2016 特別賞受賞
 ・第36回医療情報学連合大会
 優秀演題賞受賞

救急度判定アプリケーション

特許 WO2017/154711

論文 片山祐介、嶋津岳士、溝端康光、北村哲久、ICTを活用した地域網羅的救急患者レジストリによる緊急度判定プロトコルの妥当性に関する研究、救急救命 2018; 20(2): 28-31.

参考 URL <http://www.osaka-u-tacc.com/index.html>

キーワード 救急、医療、アプリケーション